

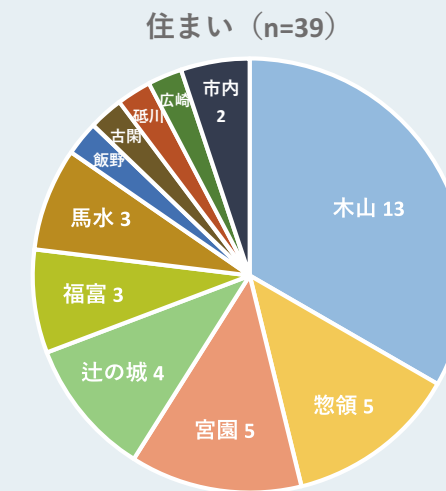
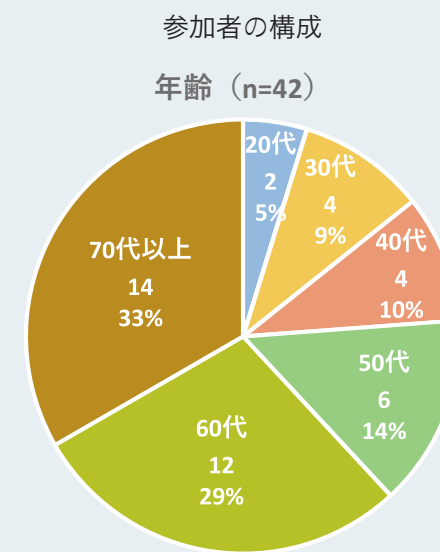
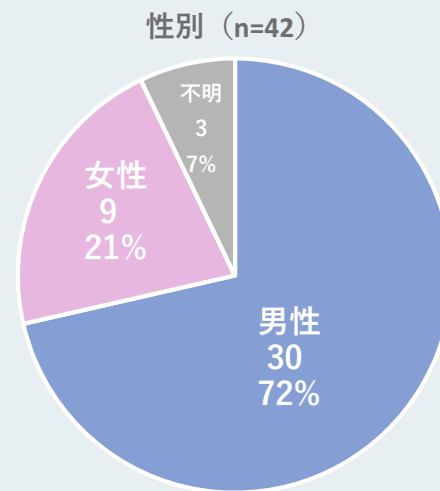
■住民のみなさんの意見まとめ

2018.2.21 「27m 県道の姿をみんなで考えるオープンラボ」 / 益城町役場

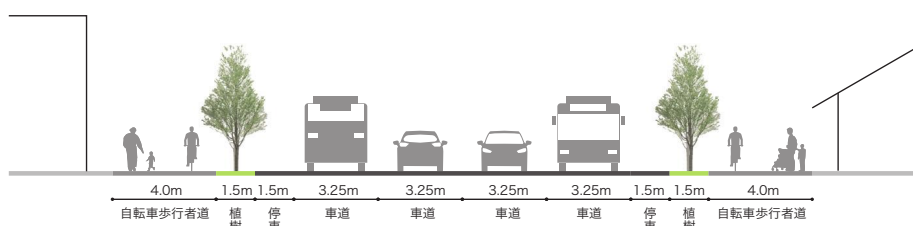


40名を超える参加をしていただき、メディア関係者にも多く集まっていた。熊本大学より、27m 県道の考え方を説明し、縮尺 100 分の 1 の模型を用いて下記の 3 つのケースの提案を行った。

- ①一般道路 : 車道脇に植栽する案
 - ②シンボルロード: 中央分離帯に植栽する案
 - ③沿道にぎわい : 歩道空間に植栽する案
- 住民の方から、その場でいただいたご意見とアンケートによる意見収集をもとに、提案を絞っていくこととした。

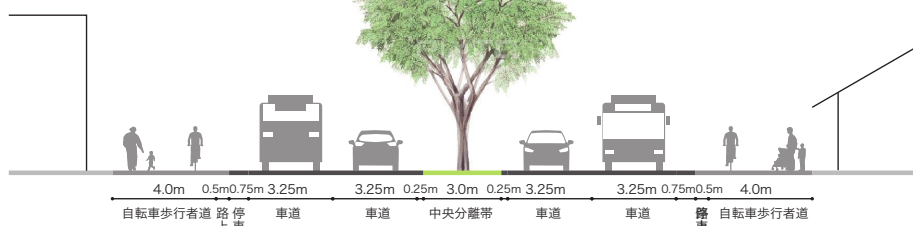


ケース① 一般道路



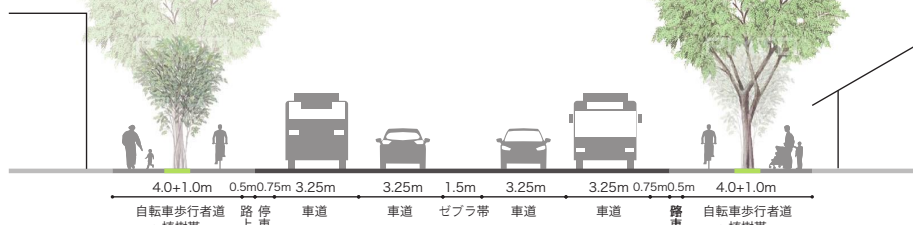
- 7票 △12票 × 9票 未 7票
- [良い点]
- ・歩行者が車道と隔たれ、安心できる
- ・道路全体がよく見え、店が見つけやすい
- [悪い点]
- ・歩道と自転車道が同じだと安心して歩けない
- ・つまらない (のっぺりしている印象)

ケース② シンボルロード



- 6票 △12票 ×13票 未 5票
- [良い点]
- ・中央分離帯があると、歩行者が中央で休める
- ・店の視認が容易
- [悪い点]
- ・木陰がないのでゆっくり歩く気になれない
- ・車の右折がやりにくい

ケース③ 沿道にぎわい



- 24票 △ 4票 × 2票 未 6票
- [良い点]
- ・歩行者と自転車がきちんと分けられて安心
- ・所々に木陰があって良く、小休憩できそう
- [悪い点]
- ・もっと明確に自転車道を分けてもいいと思う
- ・色々な樹木が植えられるが、掃除が大変そう

・ケース③「沿道にぎわい」の○が 24 票で最多

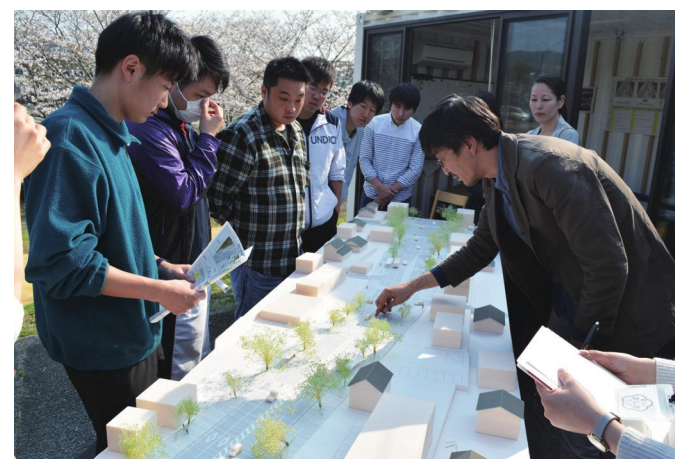
・各ケースともに良い点、悪い点があり、下記を提案に向けた検討項目とする

[歩行者] 歩行者と自転車・自動車とのすみわけによる安全性、横断のしやすさ、木陰などの快適性

[運転手] 店舗のみやすさ、右折進入・Uターンのしやすさ

[全般] 樹木の管理、景観の良さ、店舗の入りやすさ、店舗と歩道空間との連携

2018.3.3-3.31 オープンラボ (6回) / ましきラボ (秋津川河川公園内)



秋津川河川公園にある『ましきラボ』で毎週土曜日に行っているオープンラボで模型を用いた説明と意見収集を行い、「未来トーク」の生徒を含む 16 名から、意見を伺った。

- ・ケース②が○3名、×1名、ケース③が○2名
- [第三者の立場] 大学を介した意見交換の場を評価
- [計画の発信] 完成までの時間への懸念、計画自体への質問
- [全体の位置づけ] 町全体として考えること
- [コミュニティ] 街の分断の懸念、オープンカフェなどの利用

2018.3.28 とんとんカフェ



お母さん方のコミュニティである「とんとんカフェ」に出向き、6 名の方と 5 名の行政職員から意見を伺った。

- [道路横断] 歩道橋は作れないか
- [道路施設] 街灯は欲しい
- [店舗構成] 益城で用事を済ませられるような店舗構成
- [人材交流] 平成音大や東海大生との連携
- [周辺活用] 公園、駐輪場、立ち話ができる場所があるといい
- [移動手段] 現在の健軍を拠点としたパーク&ライドを益城で

「みんなで考えるオープンラボ」や「ましきラボ」、「とんとんカフェ」での意見をもとに、ケース③「沿道にぎわい」をベースに検討を進めることとする。

それぞれの場が出された、歩行者、自転車、自動車の安全性や通行の快適性、周辺店舗やコミュニティの関係性、道としての景観性や樹木管理などの課題を含めた留意事項の検討を行い、提案を行う。

■益城中央線が目指すべき道路空間像の骨子

1. 益城の顔づくり

- ・地震からの復興のシンボルとして、100年後にも魅力的で、町民の誇りとなる道
- ・どこにでもある四車線道路ではなく「益城らしさ」がある道路空間
- ・気軽に立ち話ができるような空間となり、人と人をつなぐコミュニティの場となること

1-1. 住民の希望を反映しやすい柔軟なデザイン

- ・樹木の一本一本の種類・位置を沿線住民や商業者等と話し合いながら選定
- ・住民ワークショップなどを通じたベンチや舗装のデザイン

1-2. 沿道と一体的な空間づくり

- ・歩道に隣接した公園や、オープンカフェの設置など沿道と一体的な空間づくり
- ・沿道でのイベントを開催など、広い歩行者空間を活かしたまちづくり活動の展開
- ・沿線のまちづくり協議会と連携して、デザインコード等を検討

2. 歩行者の快適性・安全性の確保

- ・自動車利用者だけでなく、歩行者、自転車利用者、バス利用者など、すべての利用者のための道路

2-1. 自転車も歩行者も快適な道

- ・気持ちよく安全に、散歩やジョギングしたり、自転車で走れる道
- ・夜間の防犯性を高めるための街路照明の設置を検討

2-2. 安全な横断への工夫

- ・県道を横断する歩行者、自転車利用者、車椅子利用者などの安全確保
- ・押しボタン式信号機のある交差点の適切な設置

3. 地域の交通を円滑で快適なものに

- ・地域の暮らしを支えるインフラとして、自動車交通と公共交通に関しても地域にニーズに根ざした工夫が必要

3-1. 公共交通の利便性の向上

- ・バス運行の定時性を確保するバス専用レーンの導入検討
- ・快適なバス停のデザイン
- ・周辺に駐輪場を設置して、サイクル・アンド・バスライドを促進
- ・パークアンドライド駐車場の検討

3-2. 沿道施設へのアクセス性の確保

- ・中央にゼブラゾーンを設置することで、右折による沿道施設へのアクセスの改善
- ・脇道との交差点も視認性が高いものに改良することで、自動車・歩行者双方の安全性向上



■住居エリアを想定した模型（右側が北）

- ・北側の住居は、南面する庭を持ち、道路の景観性を損なわず倒壊の恐れがない生垣を推奨
- ・南側には、レストランやカフェを想定し、歩道に面したカフェテラスなどを誘導
- ・歩道に面する公園や公共空地には駐輪施設などを設け、公共交通との接続性を向上
- ・歩道や公園などに植える樹木と民地に植えられた樹木によって、豊かなまちなみを形成



■商業・住居混在エリアを想定した模型（右側が北）

- ・周辺のビルのスケールに合わせ、比較的大きな樹木を選定
- ・店舗の看板などが道路から見えにくならないよう、樹木の位置を配慮
- ・マンションの一階などには店舗を想定し、歩道沿いのにぎわいを形成
- ・店舗の駐車スペースは、脇道沿いや裏手への設置を推奨することで、歩道空間の安全性を確保